平和の心　思いやりの心

那覇市立天久小学校三年　知念　由依

私は、四月の終わりごろ、家族とおばあちゃんといっしょに、平和き念しりょう館へ行きました。

はじめに目に入ったのは、せんそうにそなえたくんれんのようすのもけいです。そこでは、中学生の男女が、刀をふったり、てっぽうをうつれんしゅうをしたりしていました。子どもや弱い人は、守られるのかと思ったけれど、きびしくくんれんをうけているのを見て、びっくりしました。今私は、毎日学校へいって、友だちとべんきょうをしたり、あそんだりしています。むずかしい学習もあるけれど、毎日とても楽しくすごすことができています。毎日のくらしが、あたり前すぎて、平和だと思ったことはなかったけれど、ふつうの日じょうが平和なんだなと、気づかされました。

そして、一番かなしくなったのは、家の前の道で、一人でたおれている、おばあちゃんのしゃしんです。私にも、おばあちゃんがいます。おばあちゃんは、いつもやさしくてニコニコしています。たくさん歩くとこしがいたくなるので、いつもしんぱいになります。

「こんなにやさしいおばあちゃんが、どうして、しんでしまったの。だれかいっしょについてあげれなかったの。」

心の中でそう思いながら、しゃしんを見ていました。そしたら、お母さんが、

「じぃじも、せんそうでにげていた時に、もう歩けなくなった自分のおばあちゃんをおいてきてしまったんだって。」

と話してくれました。じぃじは、私にせんそうのことを話しません。それはきっと、思い出したくないくらい、かなしい思いをしたからだと思います。じぃじの気もちを考えると、むねがくるしくなりました。大切なおばあちゃんをたすけることができないなんて、とてもかなしいと思いました。

さいごのコーナーでは、せんそうたいけんしゃの声を聞くことができました。そこで心にのこった言葉は、

「せんそうでは、人が人でなくなる。」

です。今の私なら、道で人がたおれていたら、

「だいじょうぶですか。けがはないですか。」

と声をかけます。そんな、人をおもいやる気もちがなくなってしまう、それがせんそうのこわさなのかなとかんじました。

さいきんのニュースでは、ロシアとウクライナのせんそうのようすをよく目にします。ちをながす子ども、火の海になった町。それを見ると、私たちの島おきなわでおこったことと同じことが、世界のどこかで、またくりかえされていて、とてもかなしい気もちになります。どうしたらせんそうがなくなるのだろう。私は、ちがう国の人とでも、あい手の気もちを考えて、思いやりの心をもつことが大切なんじゃないかな、と思いました。